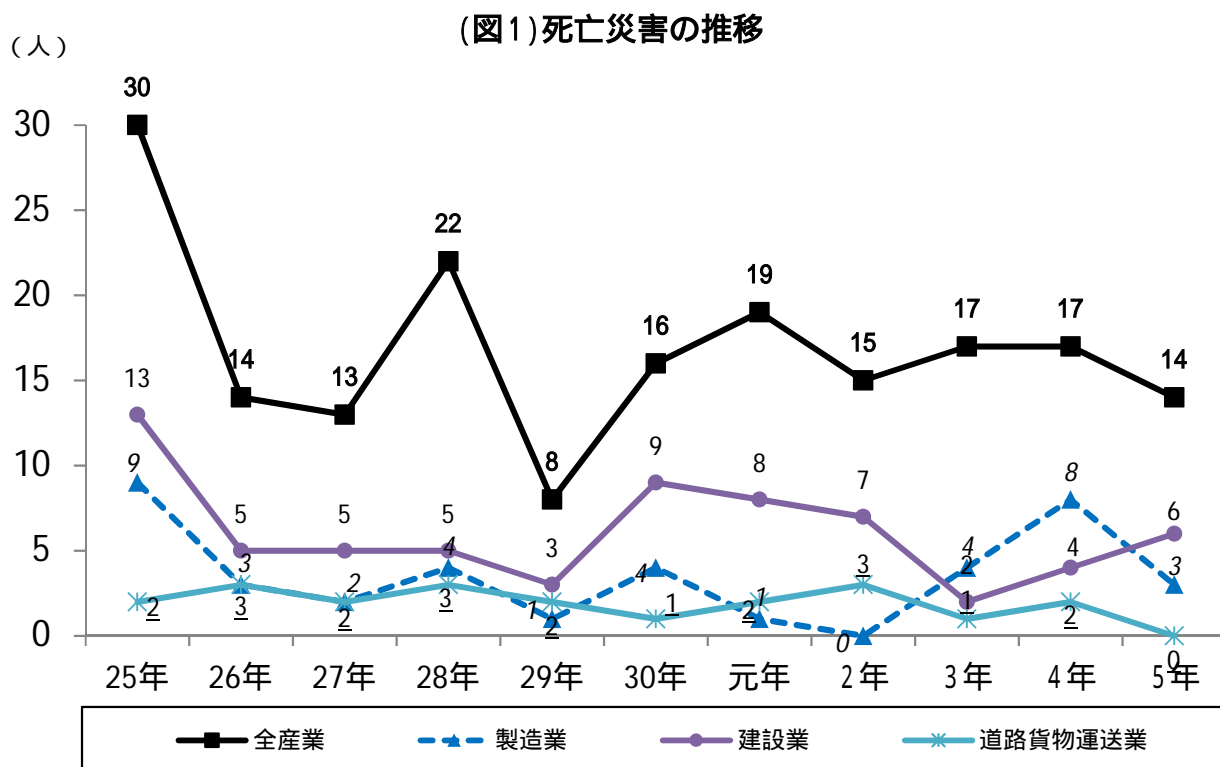


令和5年 労働災害発生状況

1 死亡災害について

(1) 令和5年(令和5年1月から12月まで)の労働災害での死亡者数は14人で、前年と比較して3人減となりました(図1)。



(2) 業種別にみると、建設業が6人(42.9%)と最も多く、次いで、製造業が3人となっています(表1)。

(表1)業種別死亡災害発生状況

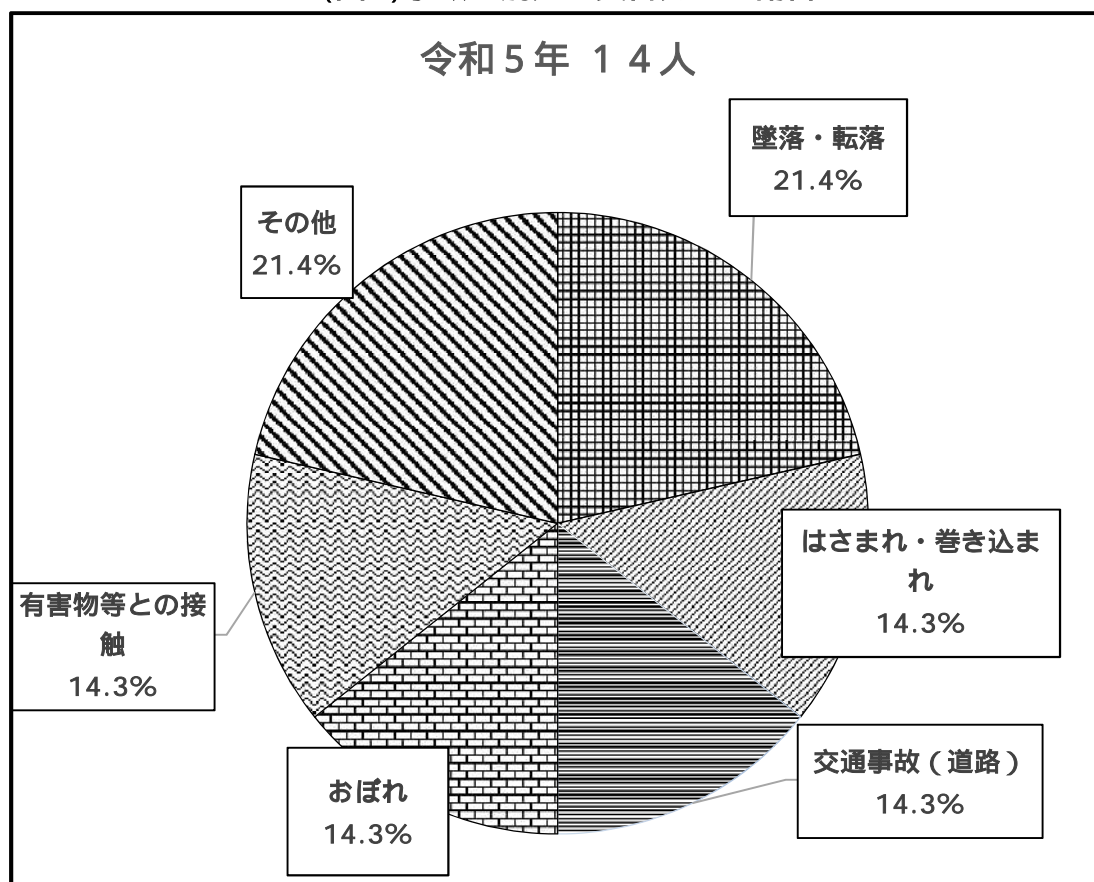
| | 製造業 | 建設業 | 道路貨物運送業 | 農林業 | 鉱業 | その他の業種 | 計 |
|------|-----|-----|---------|-----|----|--------|----|
| 令和5年 | 3 | 6 | 0 | 1 | 1 | 3 | 14 |
| 令和4年 | 8 | 4 | 2 | 1 | 0 | 2 | 17 |

(3) 事故の型別にみると「墜落・転落」で3人、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故(道路)」、「おぼれ」及び「有害物等の接触」でそれぞれ2人となっています(表2、図2)。

(表2) 事故型別死亡災害発生状況

| 事故の型別 | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|------------|------|------|--------|
| 火災 | 0 | 6 | - 6 |
| 墜落・転落 | 3 | 3 | ± 0 |
| 崩壊・倒壊 | 0 | 3 | - 3 |
| はさまれ・巻き込まれ | 2 | 2 | ± 0 |
| 感電 | 0 | 2 | - 2 |
| 交通事故(道路) | 2 | 0 | + 2 |
| おぼれ | 2 | 0 | + 2 |
| 有害物等との接触 | 2 | 0 | + 2 |
| その他 | 3 | 1 | + 2 |
| 合計 | 14 | 17 | - 3 |

(図2) 事故型別死亡災害発生の割合

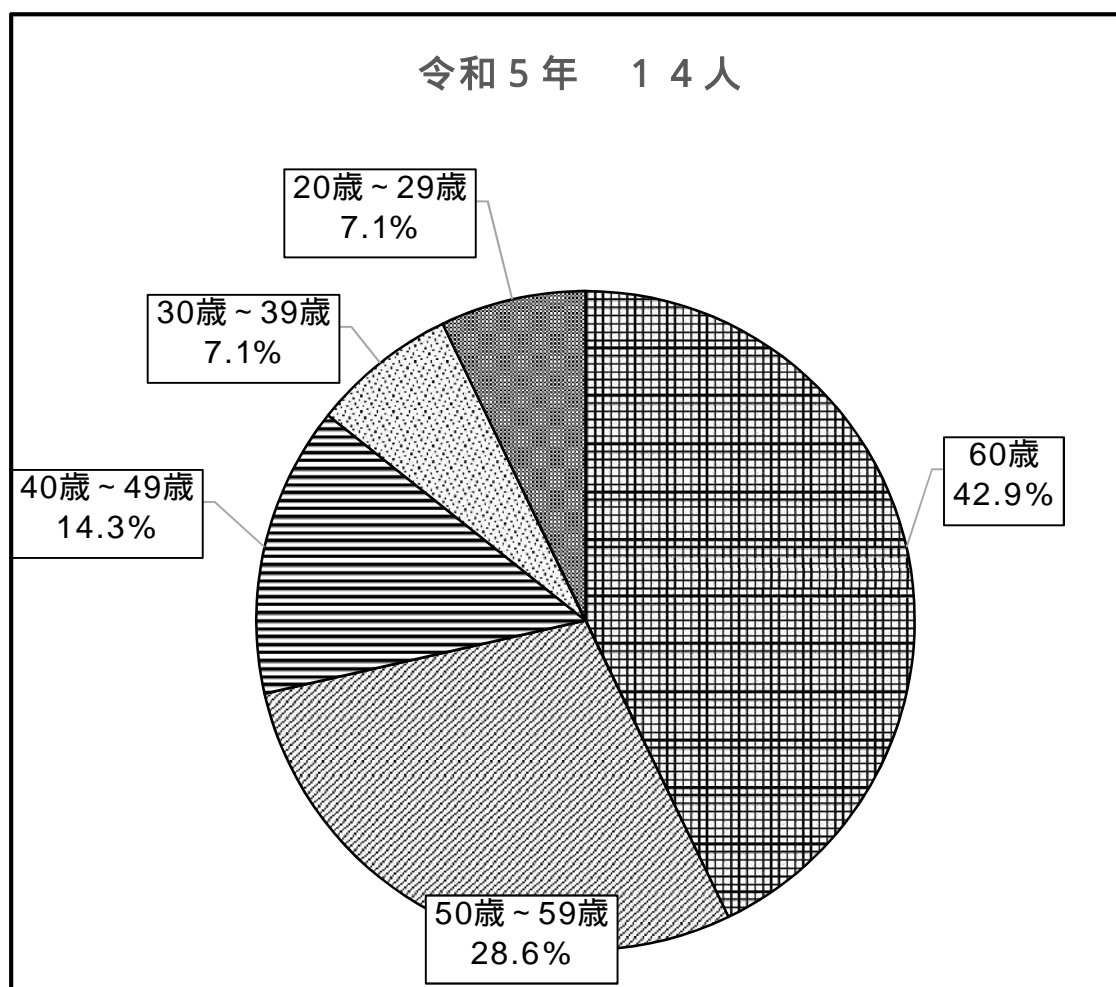


(4) 年齢別にみると、60歳以上が6人、50歳～59歳が4人、40歳～49歳が2人、30歳～39歳及び20歳～29歳がそれぞれ1人となっています(表3、図3)。

(表3)年齢別死亡災害発生状況

| 年齢別 | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|---------|------|------|--------|
| ～19歳 | 0 | 0 | ±0 |
| 20歳～29歳 | 1 | 2 | -1 |
| 30歳～39歳 | 1 | 2 | -1 |
| 40歳～49歳 | 2 | 3 | -1 |
| 50歳～59歳 | 4 | 6 | -2 |
| 60歳～ | 6 | 4 | +2 |
| 合計 | 14 | 17 | -3 |

(図3)年齢別死亡災害発生の割合



令和5年 業種別死亡災害発生状況

○製造業

| | 発生月 | 発生状況 | 事故の型 | 起因物 |
|---|-----|---|----------|------------|
| 1 | 2月 | もろみが入った仕込みタンク（内径192センチメートル、高さ175センチメートル）上部にビニールシートを掛ける作業中、仕込みタンク内に転落し溺死した。 [50歳代・男性] | おぼれ | その他の装置、設備 |
| 2 | 6月 | 工場敷地内の屋外通路を歩いていたところ、蜂に刺され、アナフィラキシーショックにより死亡した。 [50歳代・男性] | その他 | その他の環境等 |
| 3 | 11月 | 同僚が運転する社有車に同乗し営業先へ向かっていた。見通しの良い信号機のない交差点に差し掛かったところ、一時停止を怠って交差点に進入してきた車と衝突し、その反動で電柱に衝突した。病院で診察を受けたが外傷性大動脈損傷で死亡した。[80歳代・男性] | 交通事故（道路） | 乗用車、バス、バイク |

○建設業

| | 発生月 | 発生状況 | 事故の型 | 起因物 |
|---|-----|--|------------|-------------|
| 1 | 6月 | 図書館内にあるトイレの詰まりを解消するため、屋外の排水溝からエンジン高圧水洗浄機を使用して作業を行っていたところ、作業員2名が行方不明となり、酸素欠乏危険環境にあった施設内の配管ピットに倒れているところを発見された。[20歳代・男性]、[40歳代・男性] | 有害物等との接触 | 異常環境等 |
| 2 | 6月 | 化学工業の工場内で、配管を交換するためセイバーソー（電動のこぎり）を用いて配管の切断作業を行っていたところ、切断していた配管が爆発し、配管端のフランジ部で配管を支持していた作業員が死亡した。[50歳代・男性] | 爆発 | その他の危険物、有害物 |
| 3 | 7月 | 法面復旧工事において、ドラグ・ショベルの給油を行うために斜面を降りていたところ、当該ドラグ・ショベルが転倒し、運転していたオペレーターの首が運転席の手すりと地面の間に挟まれて死亡した。[70歳代・男性] | 転倒 | 掘削用機械 |
| 4 | 11月 | ダムの浚渫工事で使用した台船の解体作業中、常用洪水吐に流されそうになっていた近接工事の設備（フロート）を船外機船で引き戻す作業を行っていたところ、船外機船とともに常用洪水吐に引き込まれて死亡した。 [50歳代・男性] | おぼれ | その他の乗物 |
| 5 | 12月 | 木造二階造家屋解体工事において、二階で解体したボード類をフレコンバックに詰め、搬出する準備を行っていた。解体用つかみ機でフレコンバックをつり上げて搬出するため、アタッチメントにつりひもをかけようとしていたところ、つかみ機のオペレーターが運転席から身を乗り出 | はさまれ、巻き込まれ | 解体用機械 |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| | | した際につかみ機が突然旋回し、アームと建物躯体の間に頭部を挟まれた。 [60歳代・男性] | | |
|--|--|---|--|--|

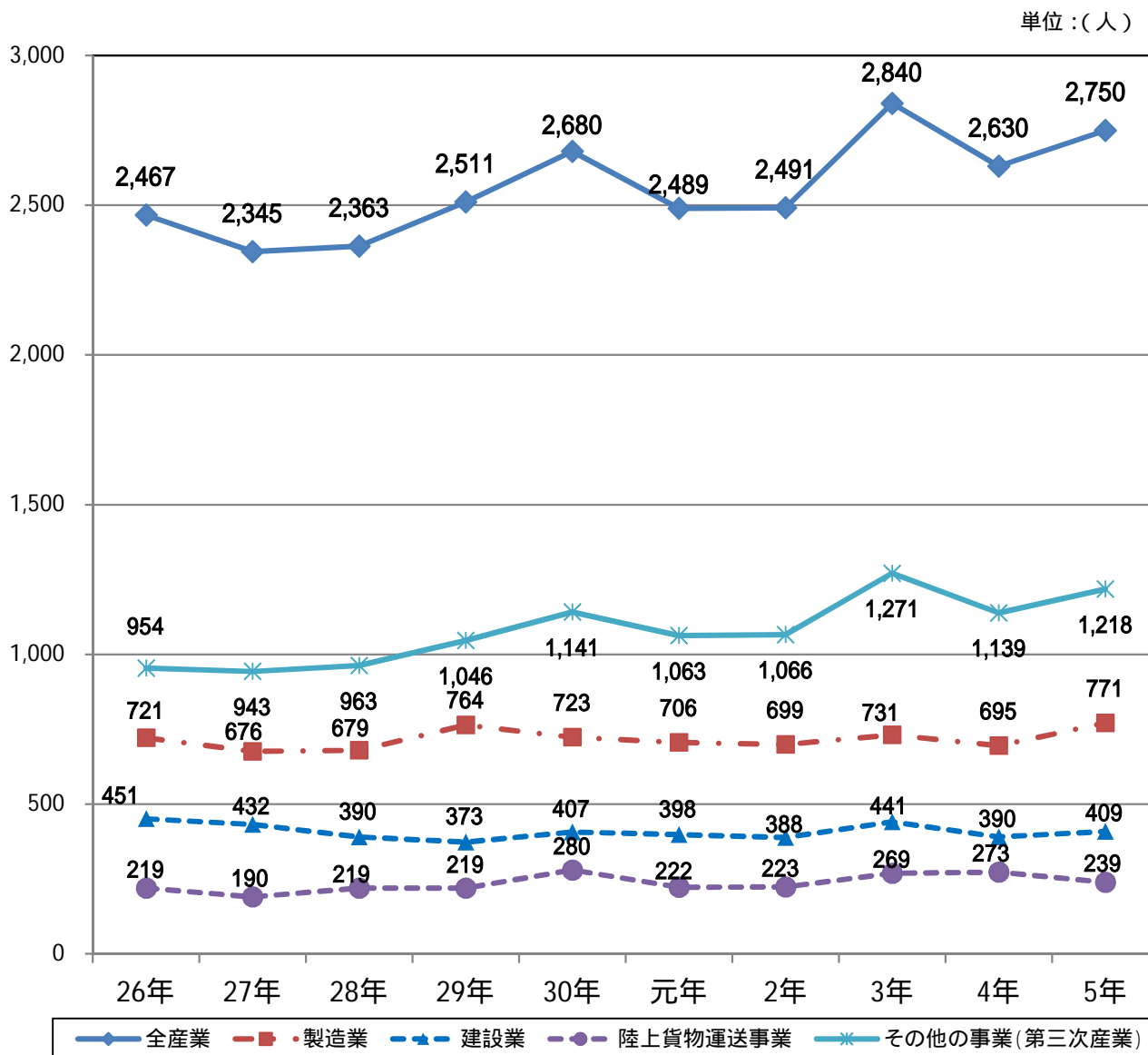
○その他（製造・建設以外）

| | 発生月 | 発生状況 | 事故の型 | 起因物 |
|---|-----|---|------------|------------|
| 1 | 3月 | 事業場内の職員用階段において、書類の入ったプラスチック製のボックストレー（重さ約7kg）を2階から1階に運搬していたところ、階段を踏み外して約2メートル下の踊り場へ転落した。[60歳代・男性] | 墜落、転落 | 階段、棧橋 |
| 2 | 4月 | 製造プラントに附設された架構上の作業床において、敷地図面作成のための写真撮影を行っていたところ、約16メートル下のアスファルト路面に墜落した。 [40歳代・男性] | 墜落、転落 | 作業床、歩み板 |
| 3 | 8月 | 花の苗箱をパレットに自動で積み上げる機械（一般名：パレタイザー）に不具合があり、被災者が機械をのぞき込むように点検していたところ、誤って光線式の起動スイッチに触れてしまい、下降してきたトレークランプと機械フレームの間に頸部がはさまれ、窒息により死亡した。 [30歳代・男性] | はさまれ、巻き込まれ | その他の一般動力機械 |
| 4 | 10月 | 水力発電所の導水路から立坑を通じて機材を運び出す作業を行っていたところ、取水ダムの縁から水叩部まで転落して失神状態となった。失神状態のまま転落した箇所にあった水深3メートルの水たまりにずり落ちたため、溺水により死亡した。[70歳代・男性] | 墜落、転落 | 作業床、歩み板 |
| 5 | 12月 | 国道脇に車を止め、付近の数軒分の新聞を配達した。車に戻るため道路の反対側から横断していたところ、走行してきた乗用車にはねられ、病院に搬送されたが出血性ショックにより死亡した。現場近くには押しボタン式の信号及び横断歩道はあったが、押しボタン信号を使用せず、横断歩道のない場所を横断していた。[70歳代・男性] | 交通事故（道路） | 乗用車、バス、バイク |

2 令和5年における休業4日以上之死傷災害発生状況

- (1) 令和5年(令和5年1月から12月まで)の労働災害による休業4日以上之死傷者数は2,750人で、前年と比較して120人(4.6%)の増加となりました(図4)。
- (2) 業種別にみると、その他の事業(第三次産業)が1,218人(44.3%)と最も多くを占め、次いで、製造業が771人(28.0%)、建設業が409人(14.9%)、陸上貨物運送事業が239人(8.7%)となっています(図4)。

(図4) 休業4日以上之死傷災害の推移



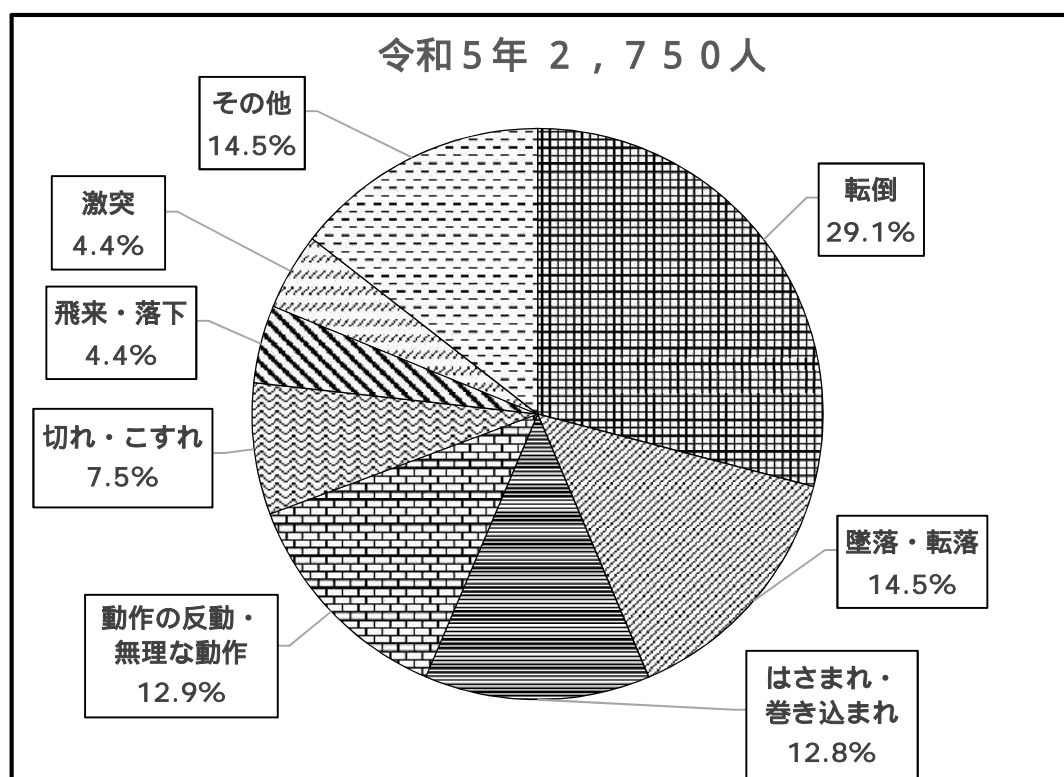
(3)事故の型別にみると、「転倒」の800人が最も多く全体の29.1%を占めています。次いで「墜落・転落」が400人(14.5%)、「動作の反動・無理な動作」が355人(12.9%)、「はさまれ・巻き込まれ」が351人(12.8%)、となっています(表4、図5)。

(表4)主な事故型別死傷災害発生状況

| | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|-----|-------|-------|--------|
| 全産業 | 2,750 | 2,630 | +120 |

| 事故の型別 | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|-------------|------|------|--------|
| 転倒 | 800 | 739 | +61 |
| 墜落・転落 | 400 | 424 | -24 |
| 動作の反動・無理な動作 | 355 | 322 | +33 |
| はさまれ・巻き込まれ | 351 | 336 | +15 |
| 切れ・こすれ | 205 | 204 | +1 |
| 飛来・落下 | 121 | 137 | -16 |
| 激突 | 120 | 133 | -13 |
| その他 | 398 | 335 | +63 |

(図5)事故型別死傷災害発生の割合

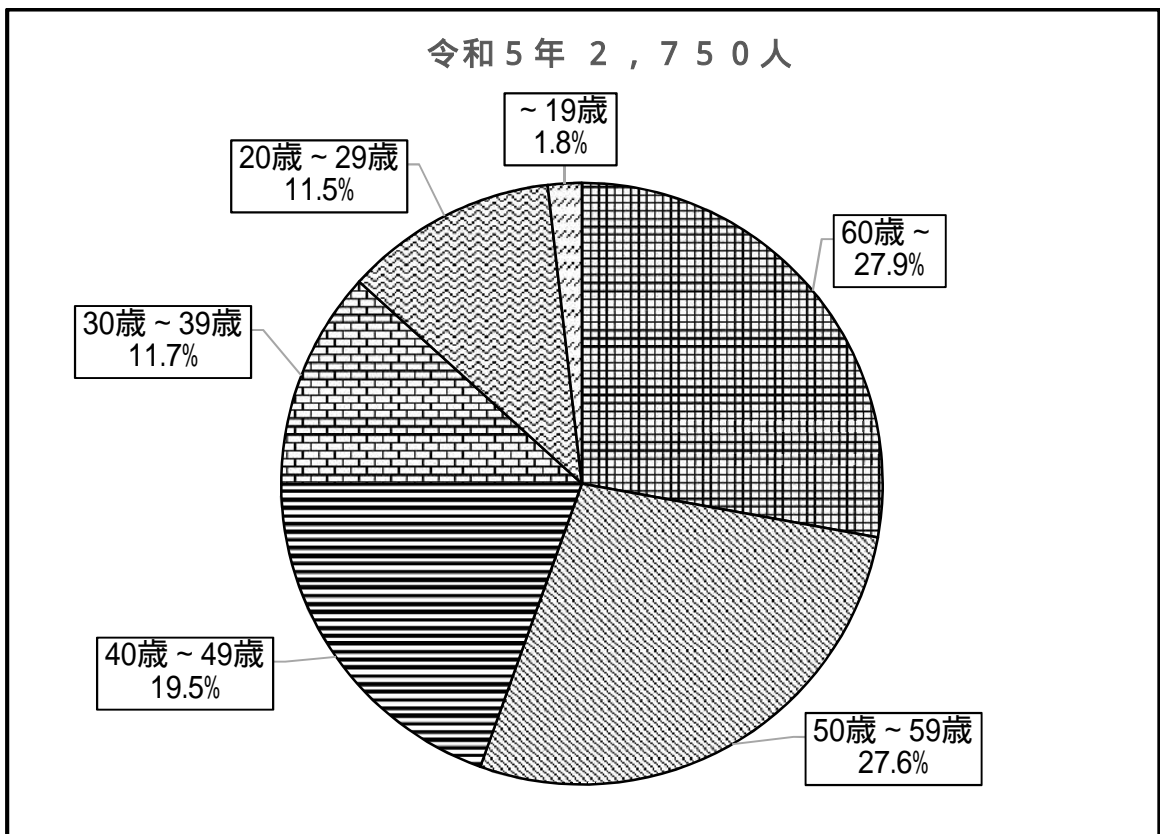


(4) 年齢別にみると、60歳以上が766人と最も多く27.9%を占め、次いで50歳～59歳が760人で27.6%を占めています。(表5、図6)。

(表5) 年齢別死傷災害発生状況

| 年齢別 | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|---------|-------|-------|--------|
| ～19歳 | 50 | 35 | +15 |
| 20歳～29歳 | 315 | 259 | +66 |
| 30歳～39歳 | 323 | 356 | -33 |
| 40歳～49歳 | 536 | 538 | -2 |
| 50歳～59歳 | 760 | 711 | +49 |
| 60歳～ | 766 | 731 | +35 |
| 合計 | 2,750 | 2,630 | +120 |

(図6) 年齢別死傷災害発生の割合



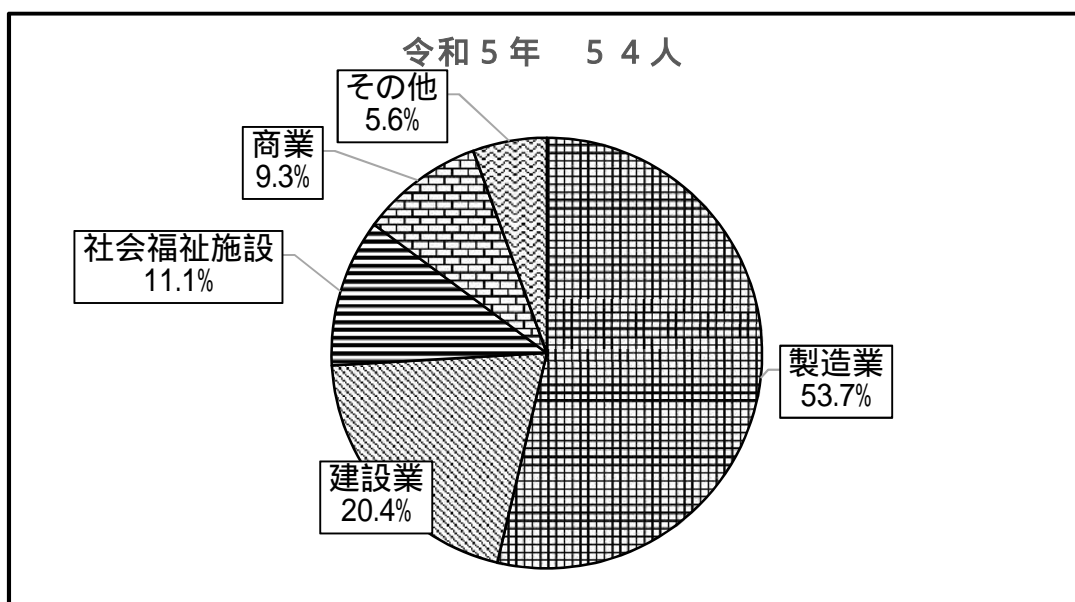
(5) 外国人労働者の休業4日以上死傷災害発生状況

外国人労働者の死傷者数は54人と前年に比べ20人増加した。

(表6) 外国人労働者の死傷災害発生状況

| | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|--------|------|------|--------|
| 製造業 | 29 | 16 | +13 |
| 建設業 | 11 | 9 | +2 |
| 社会福祉施設 | 6 | 1 | +5 |
| 商業 | 5 | 4 | +1 |
| その他 | 3 | 4 | -1 |
| 合計 | 54 | 34 | +20 |

(図7) 業種別外国人労働者の死傷災害発生の割合



(表7) 外国人労働者の事故の型別死傷災害発生状況

| 事故の型別 | 令和5年 | 令和4年 | 前年比(人) |
|-------------|------|------|--------|
| はさまれ・巻き込まれ | 11 | 6 | +5 |
| 転倒 | 10 | 5 | +5 |
| 飛来・落下 | 9 | 2 | +7 |
| 切れ・こすれ | 8 | 8 | ±0 |
| 動作の反動・無理な動作 | 4 | 1 | +3 |
| 墜落・転落 | 3 | 6 | -3 |
| その他 | 9 | 6 | +3 |
| 合計 | 54 | 34 | +20 |

(図8) 事故の型別外国人労働者の死傷災害発生割合

